

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和4年3月)

### ～まん延防止等重点措置の解除で、現状判断は3か月ぶりに上昇～

- 景気ウォッチャー調査・3月調査の近畿地域の結果は、現状判断が49.7と前月比で3か月ぶりの上昇となった。先行き判断も47.5と2か月連続の上昇となっている。
- 足元の景気については、まん延防止等重点措置の解除により、飲食や宿泊、百貨店などで客足の回復がみられるものの、まだ一定の感染が続く中、回復の動きは力強さに欠ける形となっている。ガソリン代や電気料金の他、食料品をはじめとする生活必需品の値上げの動きも、消費の悪材料となっており、マインド面はもちろん、実際の売上にも影響が出ている。
- 一方、ロシアのウクライナ侵攻による影響については、まだ具体的な言及は多くないものの、資源相場の上昇や世界的な物流網の混乱のほか、受注面への影響も挙げられるなど、徐々に広がりを見せている。
- 先行きについては、まん防の解除による効果や、3回目のワクチン接種、経口薬の効果への期待もあり、飲食や旅行関連を中心に、一定の回復を見込む声が聞かれる。ただし、それ以上に物価の上昇に対する懸念は大きく、消費者の所得環境の悪化や、企業収益への悪影響を心配する声は非常に多い。加えて、新型コロナウイルスの感染第7波の発生についても、今後の大きな不安材料となっている。
- さらに、ロシアのウクライナ侵攻による影響については、物価上昇の加速や、原材料の不足、サプライチェーンの混乱など、幅広い動きが出てくるとの声が聞かれる。事態の推移は全く不透明なだけに、今後の最大のリスク要因として、引き続き警戒が必要と考えられる。

#### 「各種コスト、物価の上昇」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店(服飾品担当)	・まん延防止等重点措置の延長で、月前半の来客数はかなり鈍く、特に年配層の来店はまだ控えられている。一方、若年層の来店は順調に増え、コロナ禍への感覚の差が感じられる。ラグジュアリー関連の動きが良く、4月に値上げを予定している多くのブランドで先買いが進むなど、好調に推移している。それに対し、コスメ関連はコロナ禍の影響が強く、対面接客が不可欠なブランドは軒並み苦戦している。一方、まん延防止等重点措置が解除された月後半は来客数が大きく回復し、26日の土曜日は、寅の日と一粒万倍日、天赦日などが重なったこともあり、財布関連のアイテムの売上が大きく伸び、景気回復と金運上昇を願う客の動きが強く感じられる。
		スーパー(店員)	・コロナ禍が少し落ち着いてきたら、人出も多くなり、家族で買物に来る人も増えてきた。価格がかなり下がったイチゴなどは、毎日かなり売れている。お彼岸も天気が良かったせいで、お供え物の果物や墓花がよく売れている。
		コンビニ(店員)	・少しずつ増えつつあった来客数が、安定して増え始めたと感じる。活気や雰囲気も戻りつつあるため、このまま勢いがついて、売上も伸びていくと予想される。物価の上昇などで家計には厳しいが、コンビニも低価格で品質の高い自社製品を開発し始めており、コンビニの商品は高いというイメージは徐々に変わってきている。
		家電量販店(店員)	・今月は決算の影響や、新生活関連や引っ越し需要、家電価格の値上がり見込みといった効果もあり、コロナ禍の状況にしては、高価な家電の販売量が増えている。
変わらない	変わらない	一般小売店[野菜](店長)	・物価の上昇で、仕入れも難しくなっているなかで、大手の安売り部門が注目を集め、よく売れている。本日の商売という面ではやりにくくなっている。
		スーパー(経営者)	・加工食品に加え、生鮮食品も価格が全般に上がっている。単価アップの影響で買上点数は落ちているものの、売上は前年並みであり、2～3か月前と比べても悪くない。
		家電量販店(営業担当)	・取りあえず製品がそろわないほか、価格の上昇も進んでいる。
		その他専門店[宝石](経営者)	・新型コロナウイルスの影響は少し落ち着いてきたが、ウクライナ問題でいろいろな面でバランスが悪くなり、物価も上昇しつつあることが懸念される。

家計動向関連	変わらない	その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・来客数や売上が前年よりも減少している。まん延防止等重点措置の解除で、外に出掛ける人が増え、買物には行かないようになっている。4月からの値上げには敏感となっているが、さほど売上には影響が出ていない。
		テーマパーク（職員）	・ロシアへの経済制裁で世の中全体がインフレ傾向にある。消費者物価が上昇傾向となれば、消費は全体的に悪化していく。
		住宅販売会社（経営者）	・建築資材などについては、調達価格の上昇と納期の遅れが続いている。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・年末から不動産の販売状況には減速感があつたが、年度末にかけて横ばいとなっている。ただし、急速なコストアップが発生しており、今後の価格上昇が大きな懸念材料である。
	やや悪くなっている	一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・コロナ禍に加えて、様々な材料の値上げに伴って価格が変わるほか、ウクライナ危機の影響で石油に由来する製品の生産調整が始まっているなど、供給に関する課題が多い。
		百貨店（宣伝担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、来客数は回復したものの、売上が伴っていない。世界情勢の悪化や原油価格の上昇、株安などの様々な要因から、客の財布のひもがかなり固くなっていると感じる。
		スーパー（企画担当）	・様々な原材料や商品が値上げ対象となっているが、競合店もあるなかで、そのまま販売価格に転嫁することは難しい。大手企業との戦いはますます厳しくなっている。
		家電量販店（店員）	・ロシアのウクライナ侵攻により、世の中の流れが不安定になり、来客数が減少しているような気がする。原油価格の高騰もあり、現状は厳しい。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・原油価格の高騰が社会や経済に与える影響は大きい。また、新型コロナウイルスの新規感染者数はピークアウトしたものの、減少ペースは予想よりも鈍い。
		住宅販売会社（総務担当）	・ウクライナ危機により、資材の調達に時間が掛かるほか、価格が高騰している。
悪くなっている	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻による物価の上昇で、景気の減速が進んでいると感じる。	
	一般小売店〔呉服〕（店員）	・新型コロナウイルスの影響が続くなか、世界でいろいろなことが起きている。全ての物が値上がりし、客は買い控えをしている。	
企業動向関連	なっている	金属製品製造業（営業担当）	・資源価格の値上がりを見越して、早めに在庫を確保する動きがある。
		変わらない	建設業（経営者）
	その他サービス〔自動車修理〕（経営者）		・コロナ禍の影響や物価の上昇により、良い方向には進まない。
	その他非製造業〔商社〕（営業担当）		・引き合いは増えてきたが、原材料の値上がりに対応し、製品価格を見直す必要がある。その影響がどう出るかの、まだまだ分からない。
	やや悪くなっている	繊維工業（団体職員）	・原材料費や加工料の値上げが続いている。
		繊維工業（総務担当）	・加工料や原材料の単価が上がってきている。商品価格への転嫁は難しく、利益の減少につながっている。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・売上はまず堅調に推移しているが、ロシアのウクライナ侵攻の影響で燃料費の高騰が避けられず、純利益の減少が予想される。ウクライナ情勢がこう着状態で、先行きの見通しがはっきりしないことも不安材料である。またコロナ禍については、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向であるものの、高止まりしており予断を許さない。
		金属製品製造業（経営者）	・半導体不足や海外からの部品の入荷遅延で、自動車工場の稼働率が改善されていない。さらに、ここへきて鋼材価格や諸物価の上昇により、産業全体に減速感が出てきている。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・僅かながらも物価は上昇している。
		建設業（経営者）	・資材価格などの上昇分を、販売価格に転嫁し切れない。

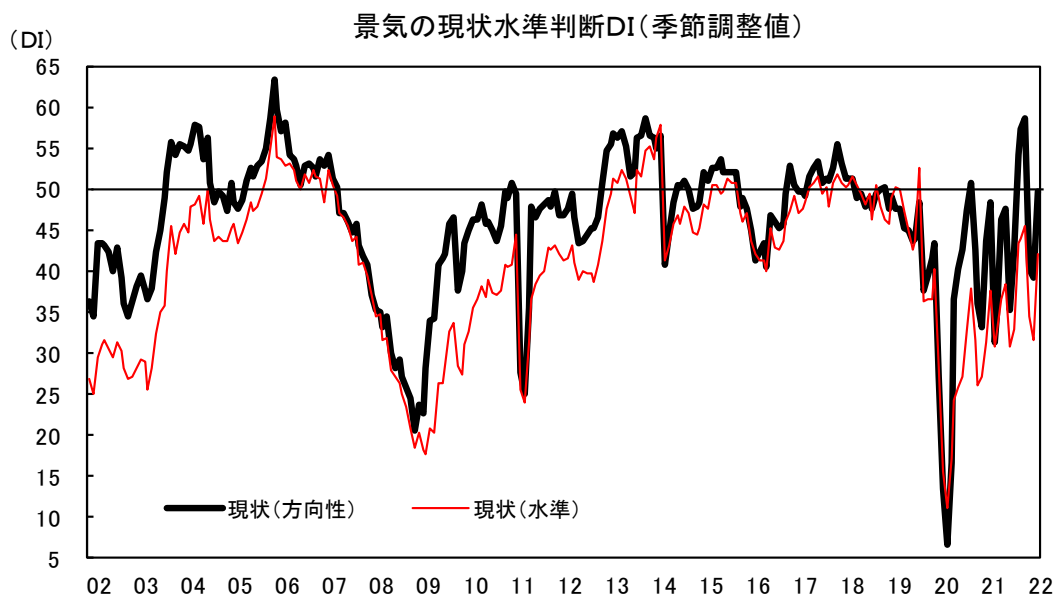
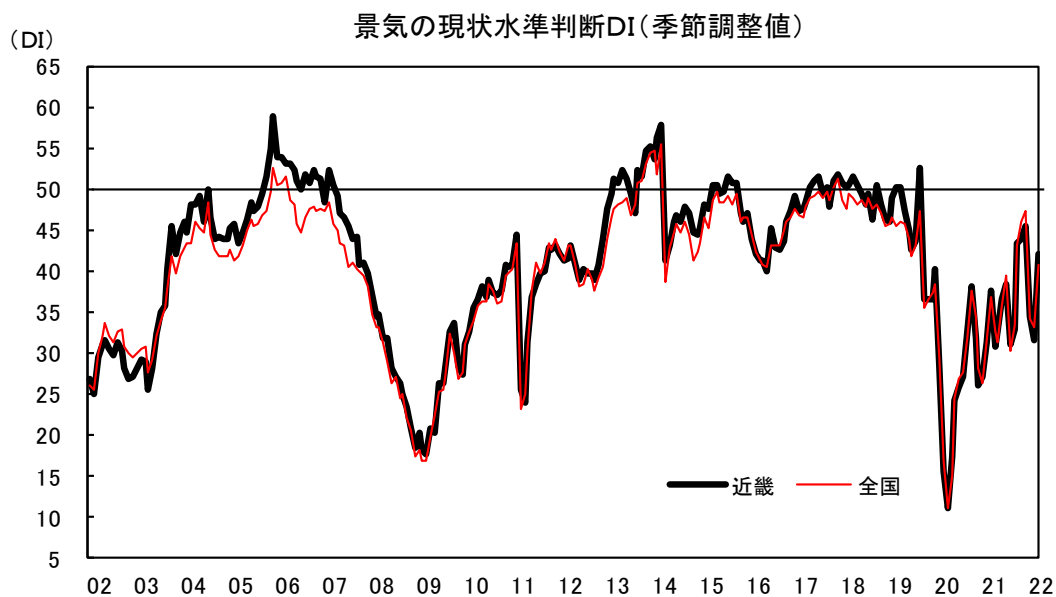
### 「ウクライナ危機」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	やや良くなる	百貨店（外商担当）	・徐々に消費行動は好転しており、新型コロナウイルス発生前の状況に近づきつつある。ただし、ウクライナ情勢に対する不安要素の存在が懸念される。
		百貨店（マネージャー）	・今後もウクライナ危機による影響は懸念されるが、国内では3回目のワクチン接種による外出意欲の上昇のほか、リベンジ消費への意欲も高まるなど、プラスの要素が見込まれる。
		旅行代理店（支店長）	・国内旅行については、ゴールデンウィークの日並びも良いほか、自治体による県民割やG.O. T.Oキャンペーンの再開を求める声は大きい。需要は伸びると考える。一方でウクライナ問題もあり、海外旅行の復活はまだまだ先となる。
	変わらない	一般小売店〔野菜〕（店長）	・ウクライナ問題が3か月後に終わっているかどうかで、物価の上昇率が変わる。安定して商品が入ってくれば助かる。
		百貨店（店長）	・ウクライナ危機などで物価が上がるなか、お金を節約する部分と使う部分の差がどんどん出てくる。一方、新型コロナウイルスの新規感染者数がまた増えてくることも予想されるなど、不安材料がなくなるまでにはまだ時間が掛かる。

変わらない	百貨店（営業推進担当）	・コロナ禍は一旦落ち着いているが、緊迫するウクライナ情勢、原材料価格の高騰による食品類の値上げなどの悪影響で、大きな伸びは期待できない。
	百貨店（特選品担当）	・コロナ禍は良くなったり悪くなったりの繰り返しで、結局は余り変わらない状況である。今後は良くなる可能性の方が大きいのが、ウクライナ危機による影響も少なからず出ており、事態が長引けば、影響は更に大きくなることも考えられるので、3か月先も状況はそれほど変わらない。
	百貨店（宣伝担当）	・中国やアジアからの輸送の停滞に、ウクライナ危機の影響が加わり、春夏商品の入荷に遅れが始めている。ゴールデンウィークや母の日商戦を前に、不安要素が増えている。
	百貨店（販促担当）	・コロナ禍に加えて、ロシアのウクライナ侵攻による社会不安もあり、先が全く見通せない状況にある。状況が良い方向に進む場合は、旅行を中心に消費の機運が一気に高まり、プチぜいたくをキーワードに消費を楽しむ提案を進めていく。仮に逆の方向であれば、引き続きイェナカでのプチぜいたくや、防災関連商材の打ち出しを行うなど、柔軟に対応していく。
	家電量販店（営業担当）	・コロナ禍とウクライナ危機の影響がある間は、厳しい状況が続く。
	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・ロシアのウクライナ侵攻により、為替や金相場の変化で仕入商品のコストも上昇し、販売価格を上げざるを得なくなっている。新年度以降の、客への商品提案も簡単ではない。
	一般レストラン（企画）	・コロナ禍の影響については、内食、中食と比べて外食はまだまだ厳しい。まん延防止等重点措置は解除されたが、消費はまだ回復には至っていない。また、ロシアのウクライナ侵攻による経済への影響は、原油や原材料価格の上昇が企業や家計を直撃しており、今後も厳しい状況が続くことが予想される。
	競輪場（職員）	・ゴールデンウィークに入るほか、当競走場で一大イベントがあるなど、良くなる要素はある。ただし、ロシアのウクライナ侵攻による影響や、コロナ禍による物流の悪化や物価の上昇で、どの程度の影響が出るのか、見当が付かない。
	その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・ウクライナ危機の長期化によるインフレの進行や、新型コロナウイルスの感染拡大といった下振れリスクが多く、慎重にならざるを得ない。特に、消費の力強い回復がみられない段階で、水道、光熱費が急上昇すれば、企業収益が打撃を受ける。
	その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・コロナ禍やウクライナ危機によって、物価の上昇が進むなか、消費が活発化しない。
やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・ロシアによるウクライナ侵攻の影響もあって所得が増えないなか、物価は上昇しており、消費に影響が出るのは必至である。前年の5月は緊急事態宣言の発出で大きく悪化したため、今年は通常の営業ができれば、前年よりも良くなるが、本格的に景気が良くなる状況にはない。
	コンビニ（店長）	・コロナ禍に加えて、ウクライナ危機の影響も不安視される。ガソリンや小麦粉など、どの部分にどの程度の影響が出るのかが心配である。
	家電量販店（店員）	・コロナ禍やウクライナ危機が日本経済に大きく影響し、小売業にもダメージが出る。消費者の購買意欲は下がり、既に最低限の生活を受け入れる傾向になりつつある。
	乗用車販売店（営業担当）	・半導体不足に加え、ウクライナ危機で更に生産が落ちることが予測される。
	乗用車販売店（販売担当）	・ロシアのウクライナ侵攻もあり、今後、原材料費や燃料費の高騰などが足を引っ張る。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、G o T oキャンペーン等の観光振興策が打ち出されると、ゴールデンウィークを中心に景気の一時的な回復が見込まれる。ただし、ウクライナ危機や原油価格の高騰が長期化すれば、物価の上昇につながり、買い控えなどの消費の抑制が進む。
	通信会社（社員）	・コロナ禍からの回復が余りみられない。ウクライナ危機の影響や、ガソリン代を始めとする物価の上昇により、消費を控える傾向がますます強まることが懸念される。
	通信会社（企画担当）	・ウクライナ情勢やコロナ禍の影響、各国での金融引締めなどから、我が国もインフレ傾向になると予想される。一方、それに見合った給料の増加は見込めないため、景気は悪化に向かうと考えられる。
	テーマパーク（職員）	・ロシアによるウクライナ侵攻が社会に与えたインパクトは相当大きい。ロシアが我が国の隣国という現実から、他人事でないことがよく分かる。原子力発電施設に攻撃を仕掛ける国とは、正常な交渉は困難である。
	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・ウクライナ危機に伴う物価の上昇で、財布のひもが固くなることを心配している。
悪くなる	住宅販売会社（経営者）	・ウクライナ問題で、徐々に国内の景気にも影響が広がる。
	住宅販売会社（総務担当）	・ウクライナ危機に伴い、木材の建材やコンピュータ制御の浴槽などの調達に時間が掛かり、費用も上昇傾向となる。
	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・ロシアのウクライナ侵攻による影響が出る。
	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が今後また増えるおそれがあるほか、物価上昇による買い控えの懸念も強い。ロシアによるウクライナ侵攻の動きも、今後の推移は不透明であり、景気が良くなるとは到底思えない。
	住関連専門店（店長）	・通関業者によると、ロシアのウクライナ侵攻で船便の輸送費が1.5～2倍に上昇し、航空輸送は10～20倍に高騰している。現地の取引先からは、燃料費高騰による大幅値上げの通達があった。目に見えて大変厳しい状況となっている。

企業動向関連	良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・国際コンテナ運賃の暴騰や、ロシアのウクライナ侵攻など、自社事業に影響の大きな事象が発生し、利益が計画よりも大幅に減っている。利益の減少は販売量の増加で埋めるしかなく、より一層の販路拡大を目指し、事業を進める予定である。
	変わらない	化学工業（企画担当）	・元々食品原料の価格が高騰していた上に、ロシアのウクライナ侵攻により、本来であれば作付けの時期である春に、コーンや他の農作物の作付けができないため、中長期にわたって原料が不足することが予想される。
		一般機械器具製造業（経営者）	・コロナ禍で既に悪いなか、ウクライナ危機の影響もあり、業況が持ち直すことはない。
		建設業（経営者）	・ウクライナ危機による建設資材関連への影響を心配している。今後も設備投資の計画予算に合わず、工事が凍結や延期、縮小、中止となるケースが増えそうである。
		金融業（営業担当）	・コロナ禍やウクライナ危機の影響で、商品が値上がりしている。また、入荷がないため、資金繰りも悪化が進む。
		金融業（副支店長）	・ウクライナ情勢の不安定化で、株式相場も不安定な状況となっている。景気についても、引き続き様子見の消費者が多いと予想される。
		司法書士	・まん延防止等重点措置が解除されたが、早くも新型コロナウイルスの新規感染者数の増加傾向がみられたり、ウクライナ問題も続き、明るい兆しがみえてこない。
	やや悪くなる	化学工業（管理担当）	・ウクライナ問題や原材料の価格高騰などで、先行きは不透明であり、利益の減少が予想される。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻により、エネルギー問題が注目されているが、石油製品の更なる値上がりが見込まれる。仮に原材料の価格上昇分を製品価格に転嫁すれば、受注量の減少につながる。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・ロシアのウクライナ侵攻の影響で、景気の先行きは不安定である。経費のうち高い比率を占める燃料費の高騰が確実な状況であるため、売上は堅調に推移する予想ではあるものの、純利益の減少は避けられない。不安な要素が多く、景気はやや悪くなることが予想される。
		金属製品製造業（経営者）	・ロシアによるウクライナ侵攻で、経済に更なる減速感が出てくる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・コロナ禍とウクライナ問題により、材料価格が上がっているほか、入荷も減少している。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・ロシアによるウクライナ侵攻で、今後は国内でも徐々に影響が出てくる。既にガソリン価格は170円台後半まで値上がりしており、物価の上昇が懸念される。
な悪くなる	その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響に加え、ウクライナ危機や中国でのロックダウンの影響も懸念されるなど、良い方向には進まない。	
	通信業（管理担当）	・ロシアによるウクライナ侵攻で、世界経済の悪化が進むと予想される。	

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		20年			21年												22年									
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
現状判断	近畿	13.5	6.6	16.7	36.6	40.2	42.6	47.4	50.7	42.6	36.0	33.2	43.7	48.5	31.4	34.7	46.2	47.5	35.3	42.7	54.1	57.3	58.7	40.3	39.3	49.7
	(全国)	14.7	9.1	16.7	39.0	41.8	44.1	47.7	52.7	44.2	35.3	31.9	41.7	48.5	39.0	37.8	46.5	48.0	34.9	42.3	55.1	56.8	57.5	37.9	37.7	47.8
先行き判断	近畿	19.2	20.8	39.9	42.0	34.8	43.2	45.7	44.4	33.8	37.6	37.8	51.0	46.0	40.0	50.5	49.7	46.3	44.3	55.4	55.1	51.3	49.4	41.9	44.2	47.5
	(全国)	20.1	19.3	38.2	43.5	35.8	42.8	47.1	46.9	34.7	36.9	40.4	51.0	50.2	43.5	48.0	51.1	47.3	43.5	56.6	56.6	53.2	50.3	42.5	44.4	50.1

※季節調整値